

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	① 科学技術教育に関する感性を醸成させ、幅広い教養・技能・技術を身に付けさせる。 ② 生徒一人ひとりに見合った指導を工夫し、全ての生徒が等しく学習者として参加できる体制を整える。	① 科学技術教育に関する幅広い教養・技能・技術を、実習の授業を中心に学校生活全般で身に付けさせる。	①実習や課題研究等で、他分野の内容や取組を知ることににより、自身の分野のすそ野を広げる。また、様々な学校生活の場面において科学技術と結びつける。	①他系の実習や課題研究等の取組みや内容を見学や知る機会があったか。授業評価で「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」が高評価であったか。	①課題研究において、他系の発表会に参加し、他者の取組みや考えを知る機会を設けることができた。また、授業評価の評価項目において、肯定的な評価が77.3%と高評価であった。	①他系の取組みや考えを知る機会を設けたことは前進だが、その取組みや考えを自身の知識や経験と結び付けて考察する難しさがある。現在、他系との乗り入れ可能な選択科目を検討している。	①実習や課題研究等で、他分野の内容や取組みを知ることは意義があり、それを実践したことは高く評価できる。	①他系の課題研究発表会に参加し、専門分野以外の取組みや考えに触れる機会を設けることができたが、自身の分野との結びつきや考察する難しさが課題として認識できた。	①他系の課題研究発表を共有できる場面を増やし、他系同士の交流を促す。また、他系との乗り入れ可能な選択科目の新設を検討していく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	① 基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会のルールを順守できる人材を育成する。 ②支援が必要な生徒を適切な機関につなげる支援体制を構築する。 ③ 部活動や委員会活動を活性化させ、責任感やコミュニケーション能力などの人間性を育む。	①基本的な生活習慣を確立させ、社会のルールを順守できる生徒を育成する。 ②支援が必要な生徒がいつでも相談できるように相談体制を構築する。 ③生徒が部活動や委員会活動への参加を促す。	①定期的に校内外指導を行い、基本的な生活習慣が身につくように丁寧な指導を行う。 ②担任や教科担当、SCやSSWと連携し、支援が必要な生徒を拾い上げることができる。 ③生徒の部活動への加入促進。部活動による儀式での校歌歌唱。生徒の活動状況の外部発信。	①校外からの苦情を昨年度より少なくすることができたか。 ②面談等を通して、生徒の困り感を解消することができたか。また、継続した支援が行えたか。 ③校内の儀式等で、生徒が歌唱を担当したか。生徒の部活動加入率が55%を超えたか。各委員会が複数回活動したか。	①定期的に校内外指導を行うことで、校外における事故等を予防することができ、また、校内においても事前に問題行動を防ぐことができた。 ②SCやSSWとの面談を通して、生徒の困り感を把握することができた。また、放課後カフェを行うことで様々な生徒と関わりをもつことができた。 ③生徒の部活動への加入状況は、2月1日現在で、33.6%という値となった。割合としては大きくないが、新しい同好会が目覚ましい活躍や、従来の部活動は、堅実に活動を行っている。また、各学期初め、終わりの儀式での部活動による校歌の斉唱は、ほぼ一巡した。生徒の中に根付いていると思われる。	①来年度も引き続き、校内外指導を行うことで、事前に問題行動が起こらないようにする。 ②放課後カフェを引き続き行い、SCやSSWの面談に引っかけられない生徒との関わりをもつ。 ③部活動については、昨今の高校生の興味の分化がある。これからの、入学者説明会、新入生オリエンテーション時に積極的に勧誘活動を行う環境を作りたい。また、校歌の斉唱については、現在はCDで音声の補助を行っているが、今後は生徒たちの声だけで斉唱ができるようにしていく。委員会は、生徒の学校生活への問題意識を高める取り組みを行っていく。	②放課後カフェは、面白い取り組みである。これにより、さまざまな生徒との関りがもてることは意義が大きい。 ③部活動の充実は、高校生活の活性化につながり、とても重要である。加入率の目標は達成できていないようだが、引き続き、加入率アップに力を注いでいきたい。	①校内外指導を継続的に行うことで問題行動や事故を事前に防ぐことができた。 ②SCやSSWの面談、放課後カフェを通して教育相談体制を充実させることができた。 ③部活動に関する成果と課題 成果：新しい同好会が誕生し、生徒が意欲的に活動して成果を残している。 課題：部活動への加入率が3割で推移している点。生徒の興味・関心が多様化すると共に、学校で活動にないこと。	①実施時期を検討し、効果的な校内外指導をh期続き行っていく。 ②SCやSSWの面談だけでなく、放課後カフェも活用しながら生徒の困り感をキャッチしていく。 ③部活動に関する改善方策。1. 部活動勧誘活動の工夫。新入生オリエンテーションで行う部活動紹介や、その後の見学の時間帯の使い方に生徒が部活動に向き合う活動を繰り入れる。2. 部活動の活動の情報を発信する。本校HPなどを用いる。
3	進路指導・支援	① 生徒が主体的に進路決定に向き合えるように入学時から段階的に進路指導の充実を図る。 ② 上級学校への進学を見据えたキャリア教育を実践する。	①学校生活の様々な機会を利用した進路指導教育を実践する。 ②就業体験の機会を設ける。上級学校・企業等との連携を図る。	①日ごろ生徒に接する中で進路意識向上をめざす。社会人としてのマナーを身に付けさせる。 ②2学年でインターンシップを実施する。上級学校・企業等からの出張授業や、見学会を実施する。	①就職内定率100%を達成するか。進路未決定のまま卒業する生徒をゼロにできたか。 ②持続可能なインターンシップが実施できたか。上級学校・企業等からの出張授業や、見学会を実施したか。	①就職内定率100%を達成しました。今年度は進路未決定の生徒はゼロでした。 ②参加人数は少ないが、しっかりした目的意識を持った生徒が、インターンシップに参加した。今後も、企業からは、継続的な受け入れが見込まれ	①キャリアガイダンスの時期を次年度は変更をし、柔軟に進路選択ができるようにする。 ②インターンシップについては、「本校で学んだことを活かせる企業」を提示している。今後も、希望生徒の動向をみて、実施規模を	①就職内定率100%達成は、高く評価できる。先生方の努力の賜物であり、生徒募集にも良い影響を与えるものと思う。 ②インターンシップは企業とコラボできて有益だと思う。	①就職内定率100%達成を高く評価されて、満足です。学校PRにも積極的に行えるよう努めたい。 ②本校のインターンシップについては、ご理解していただいた企業で実施している。	①就職のみならず、上級学校への選択もできる強みを広報企画GにもPRを推奨する ②本校で学んでいる専門知識を活かせるような企業を増やしていきたい。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月17日実施)	総合評価（3月25日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
						る。 ・企業・大学との連携事業については、今年度の出張授業等、実施することができた。	決めていきたい。 ・企業・大学との連携事業については、生徒の動向を見て、実施形態を確定していきたい。			
4	地域等との協働	① 工業系専門高校として、ものづくり体験教室を始め、文化祭、学校へ行こう週間等での地域への公開で開かれた学校づくりを進める。 ② 保護者や地域社会との協働により開かれた学校づくりをめざす。	①近隣中学校の連携を通し、本校の特色の周知を図る。 ②PTA や地域・企業等の連携を拡充し、教育活動の推進に取り組むと共に、ものづくりなどを通じて地域に貢献する。	①中学校訪問等の広報活動を通し、本校の特徴を知ってもらうようにする。 ②PTA や地域・企業等と連携した取り組みの実施とその情報発信を実施する。	①広報活動の内容を分析し、次年度の広報活動に向けた準備ができたか。 ②連携した事業の実施状況及びそれを踏まえた地域連携等の意見を検証する。	①今年度、HP掲載内容で、シリーズものを実施した。 ② しおかぜサポーター’ S (PTA) と連携し、文化祭、陸上記録会、自転車点検など保護者の参加により生徒の活動への協力機会を作り、各種行事などを一緒に盛り上げた。また、保護者研修会を通し、生徒が学ぶ授業内容を体験する機会を設けた。保護者に生徒目線を体感してもらい、工業系高校の特徴の理解を深める機会を作ることができた。	① 学校説明会のアンケートにおいて、HP で知った割合の多いので、よりHP の充実に努めたい。 ②保護者の参加人数が少なく、学年によっても行事参加への認識の差がある。見える学校、わかる学校づくりをグループの枠を越え、広報部門とともに検討を進めたい。	①体験イベントを知った割合で、HP が多いことが把握できたことは意味がある。また、掲載内容の充実に力を注ぐことは重要である。生徒・保護者ともスマホで気軽に HP をみることができ、内容の充実は求められていると思う。 ・工業系の卒業生が社会で活躍していることを広報し、小中学生が平塚工科の教育内容を見る機会を作るとよい。	①HP に連載記事を載せた。連載するための内容を考えるのが、課題である。 ・今年度、技能五輪で金メダルを取ったOB が、学校に受賞報告に来校してくれた。卒業後の活躍を報告にくる OB は、少ない。 ②全学年の保護者が情報を得て参加しやすい環境であることが不十分である。	①来年度、HP に、魅力のある連載記事を載せていきたい。 ・来年度、小中学校で、児童・生徒に対して、学校の事や、OB の事など、広報する機会を設定したい。 ②保護者同士の交流会や教員との懇談会の開催にて学校、保護者のかかわりを増やしたい。
5	学校管理 学校運営	① 職員の働き方改革を推進し、事故・不祥事が起こらない職場環境を創造する。 ② 防災意識を高め、防災力を上げる。地域の防災拠点としての充実を図る。	①不祥事防止研修を職員主体で実施するとともに職員の働きやすい職場を目指す。 ②教育課程の中で、実践的に取り組むことができる防災教育の充実と意識の向上に努める。	①月1回の職員会議を通して全職員で事故防止について考える。 ・衛生委員会を通して職場の状況を集約し、改善に努める。 ②自治体等と協同し、訓練、講演会、DIG 等の実施と情報発信を積極的に進める。	①毎月事故防止研修を実施できたか。また、事故・不祥事件数をもとに検証する。 ・職場環境の改善により、風通しの良い状況が作れたか。 ②防災に関する知識を習得し、災害時への対策について意識を高めることができたか。	①毎月事故防止研修を実施することで、職員の意識向上につながり、事故・不祥事について未然に防ぐことができた。また、職場環境改善により職員間のコミュニケーションが活発になった。 ②防災訓練を通して、避難経路の確認、発災時の行動を確認するとともに、学校の特徴、地理的環境を理解した防災意識の向上を図ることができた。	①不祥事防止に関しては、県全体では逮捕者が出る等収束していないこと、また、職場環境に関しては、乱雑な部屋があることから継続的に研修や改善を行う必要がある。 ②津波避難において地域住民の対応、避難待機場所のすみわけをする必要性、課題が見つかった。より、効率かつ安全に避難できる経路、場所、方法を再考し、授業中の発災を想定したより現実的な内容で実施したい。	①職場環境改善により職員間のコミュニケーションが活発になったことは意義があり、ぜひとも。継続的に進めてほしい。 ②実践的な防災訓練の取組は非常に良い取組であり、積極的に進めてほしい。	①月に一度の事故防止研修を実施し、事故・不祥事を未然に防ぐことができた。また、職場環境改善により職員間の会話が活発になった。 ②地域の防災拠点として認識されるように生徒目線、住民目線での学校施設の有効活用を検討しなければならない。	①事故・不祥事防止について、研修会がマンネリ化しないように、職員の意見を聞き改善していく。また、職場環境については意識を持たせるため日頃から打ち合わせ等を利用し、研修・指導を行う必要がある。 ②生徒、近隣住民が安全に避難できる経路、場所、方法及び授業中の発災を想定したより現実的な内容で準備を進める。